

# 正常化に向かう中国経済

## ポイント① 2四半期連続のプラス経済成長

10月19日に発表された中国の7-9月期の実質GDP（国内総生産）は前期比+2.7%、前年同期比+4.9%と、前期比、前年同期比いずれもが2四半期連続のプラス成長となりました。経済全体の付加価値の伸びを示す名目GDPも、前年同期比+5.5%と4-6月期の同+3.1%を上回りました。

新型コロナウイルス感染拡大を止めるために経済活動が大幅に制限されたことで、1-3月期に急激に悪化した中国の景気は、感染拡大が鈍化し、活動が再開されたことで他国に先んじて4-6月期から回復に向かいました。7-9月期も順調な回復が続き、中国経済は正常化に向かっているようです。

## ポイント② 生産の回復が先行

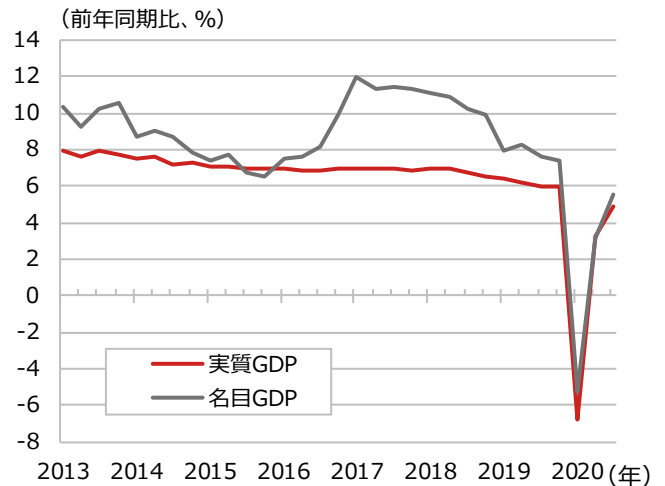
同日に発表された9月の鉱工業生産指数は前年同月比+6.9%と8月の同+5.6%を上回り、昨年12月以来の伸びに高まりました。生産面ではコロナ禍前の拡大ペースに戻ったと言えます。一方、9月の小売売上高は同+3.3%と8月の+0.5%を上回りましたが、昨年末の+8%を大きく下回っています。個人消費関連分野の回復が相対的に遅れていることが示唆されます。

## ポイント③ 残された企業負債の調整

中国では新型コロナウイルス感染拡大以前から企業の負債が過剰になり、その調整のために設備投資が抑制され、経済成長が徐々に鈍化してきました。コロナ禍で景気回復が優先されてきましたが、経済の正常化につれ負債の調整の必要性が再度高まる可能性もあります。こうした点では、中国経済は今後大きく加速はせず、中期的には年率5、6%の巡航速度の成長に落ち着くものと予想されます。

図1：中国の実質・名目GDP

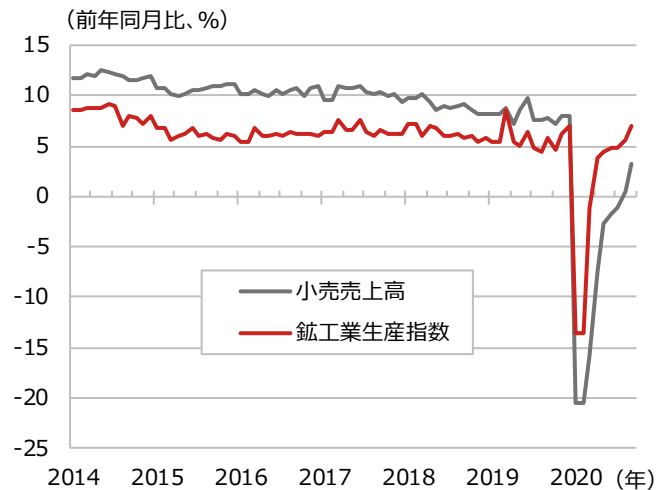
期間：2013年1-3月期～2020年7-9月期、四半期



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：中国の鉱工業生産指数と小売売上高

期間：2014年1月～2020年9月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

10月29日 米GDP (7-9月期、速報値)  
10月30日 ユーロ圏GDP (7-9月期、速報値)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。